

初めに

「漢字って実に厄介なものだ」とは、漢字を学ぶ者にとっても、漢字を教へる者にとっても、^{ひと} 齊しく懐いてゐる思ひでは無いでせうか。私も、小・中学校十一年間を通じて、漢字が最も苦手でした。

然し、それは漢字を学習する“時期”と“方法”とが大変に間違つてゐたからであつて、この二つの点を正しく改めさへすれば、漢字の学習ほど楽々と楽しく出来て、身に着くものは無いのです。

小学校の学習で、漢字の学習ほど重要なものは無いでせう。なぜかと言へば、漢字に

初めに

強ければどんな学科の学習でも効率よく進めることが出来ますが、漢字に弱かったならどんな学習もうまく行かないからです。

私は若い読者の皆さんがまだ生れておられない昭和二十六年に、東京都八王子市の教育委員会指導主事になりました。その時私は三十一歳でした。まだ若くて張切ってゐましたから、小・中学生の漢字力が弱くて、数学・理科・社会科などの教科書が満足に読めない状態に在ることを知ると、これはどんな事をしてでも、教科書位は読める子供にしてやれる教育法を編み出さなければいけない、と強く思ふやうになりました。

そこで創案したのが、「最初から漢字で教へる」といふ教育法でした。これを私は「正書法方式」と名付けたのですが、人々は「石井方式」と呼び、いつしか私もそれに従ふやうになりました。

この理論は、昭和二十七年八月、お茶の水女子大学で開催された全日本国語教育協議会で発表致しましたが、この時は何の反応もありませんでした。そこでいろいろと思案した末、指導主事を辞め、昭和二十八年から小学校の一年生を担当して、この理論を実践し検証することにしました。

この実践は、昭和四十二年まで十四年間に亘^{わた}って行ひましたが、昭和三十六年に、それまで一応検証された事について一冊の単行本にまとめ、これを『私の漢字教室』（黎明書房刊）といふ書名で刊行しました。

この教育法を受け容れて実践してくれた先生は全国各地に輩出しました。皆、信じ難いほどのすばらしい教育成果を挙げてくれました。然し、残念なことに、多くは教育委員会や校長に禁止され、実践できなくなりました。また、校長に認められた所でも、同僚の教師たちに非難されて実践できなくなりました。

それでも、全校挙げて実践してくれた学校がいくつかありました。それは、新潟

梟出町の袋津小学校、静岡県熱海市の桃山小学校、富士市の須津小学校、青森県弘前市の船沢小学校がこれです。

これらの学校では、全校挙げて実践しただけに、私が検証し、発表した以上の成果を挙げてくれました。それにも拘らず、これとても五年内外の実践で中止されてしまひました。

その理由は、「石井方式は文部省の指導要領に示された漢字学年配当表を無視したものであり、法令違反に当る。従って、公務員として許すべからざる行為である」といふ文部官僚の批判があったからです。この批判に立ち向へる校長がある間は実践できませんが、その校長が退職するとそこで中止されてしまふのです。

この頃、指導要領の編集に当られた国立国語研究所の興水実先生は、「漢字の学年配当表は、学習の最低線を示したものであつて、それを学習させないならばこれは指導要領違反である。然し、それ以上の漢字を学習させてゐる石井方式を指導要領違反と言ふのは不当である」と言つて弁護して下さいましたが、結局はその甲斐もありませんでした。私は、これで小学校教育に見切りを着け、昭和四十三年より幼稚園の漢字教育に転じました。

それから十数年の月日が流れたある日、時の文部省の教科書調査官、小林一仁先生が文部省刊行の漢字教育について書かれた書物の中で、「漢字学年配当表に因はれた指導をしてゐては漢字教育の効果は挙がらない。上の学年の漢字でも、機会があつたら呈出した方が有効である」といふ意味の事が書かれてゐるのを読みました。

今まできんかぎよくじよ金科玉条とされてゐた漢字学年配当表が、今やそれに因はれずに指導することが望ましい、といふ風に文部省も變つて来たのです。そして、平成四年度より施行されてゐる新指導要領では、小林一仁先生の書かれたことがそのまま明示され、そ

初めに

の上、今まで高学年に配当されてゐた漢字が大幅に低学年に移されました。

「漢字の学年配当表を乱す石井方式は指導要領違反である」と言つて文部省から責められ、二十四年前に小学校における漢字教育を諦めて幼児の漢字教育に転じた私であります。文部省が「学年配当表に因はれた指導は望ましくない」といふやうに百八十度の転回をした今こそ「再び小学校の漢字教育の為に頑張らなければ」と思ひます。

かえり顧みますと『私の漢字教室』の刊行から三十年といふ年月が流れました。三十年と言へば丁度ちやうど一世代です。長い年月です。当時私の著書を読んで実践してくれた先生たちも今は教育界を去り、そのお子さんがその頃の先生の年頃に達してゐることです。

私も三十年の昔に若返つた気持ちで、若い教育愛に燃える先生方に、「厄介な漢字教育を楽しい教育に変へる」本当の漢字教育——正しい国語教育をぜひ語り伝へたいと思ひます。どうぞこれから私の語る所をじっくりと読み、じっくりと考へて頂きたいと思ひます。